

11. 淡水産動物

淡水産動物は分野が広く、原生動物（ゾウリムシ、アメーバ）、海綿動物（ヌマカイメン）、腔腸動物（ヒドラ、マミズクラゲ）、扁形動物（プラナリア、ジストマ）、触手動物（コケムシ、シャミセンガイ）、袋形動物（ツボウムシ）、軟体動物（カワニナ、シジミ）、環形動物（イトミミズ、カワゴカイ）、節足動物（ミズグモ）、脊椎動物（アユ、サンショウウオ）の多くの門が含まれ、淡水産動物として重要なのは甲殻類および水生昆虫類であって、ミズダニ類もまた種類に富んでいる。中でも甲殻類の小型種は淡水産プランクトンの主要要素である。

本分科会では、節足動物の蜘蛛類のミズダニ類と甲殻類のうち、湖沼、池沼、水田のカイエビ類、ミジンコ類、カイミジンコ類、ケンミジンコ類、溪流、地下水のヨコエビ類、ムカシエビ類、ミズムシ類はプランクトンであるので、レッドデータブック検討対象種から除外した。

淡水生物学でいう淡水域は溪流、湖沼、地下水の3水域であるが、本県では特に河口域の感潮帯および干潟も淡水産動物の調査対象とした。県内の溪流域にはサワガニ、ヤマトヌマエビ、ヌマエビ、湖沼域にはマミズクラゲ、ホウネンエビ、カブトエビ、スジエビ、ミナミヌマエビ、地下水域にはムカシエビ類が生息する。河口域の感潮帯を含めた干潟にはミゾレヌマエビ、シラタエビ、テナガエビ類、カワスナガニ、ヒメムツアシガニ、ハマガニ、ピンノ類、モクズガニ類、シオマネキ類、ベンケイガニ類、アシハラガニ類、チゴガニ類、オサガニ類、アナジャコ類、スナモグリ類などが生息する。


カテゴリーと選定基準

淡水産動物では環境庁のカテゴリー（1997）を参考にして、県カテゴリーとして絶滅危惧、準絶滅危惧、情報不足、絶滅の恐れのある地域個体群の4カテゴリーを設け、カテゴリーの選定は各執筆者が行い、選定理由は各希少種の記載の中で述べた。本県での淡水産動物検討対象種は、エビ類、カニ類を中心とした甲殻十脚類の66種、その他21種の合計87種を選び、生息場所、分布確認場所などの文献および個人情報などの調査結果に基づき最終的に腔腸動物1種、節足動物22種の合計23種を選定した。

絶滅危惧	6種	ベンケイガニ、シオマネキ、アリアケガニ、アリアケモドキ、カワスナガニ、オオヨコナガピンノ
準絶滅危惧	14種	マミズクラゲ、ハクセンシオマネキ、ホウネンエビ、ミナミテナガエビ、ヤドリカニダマシ、台湾ンヒライソモドキ、ハマガニ、クシテガニ、ミナミアシハラガニ、ヒメアシハラガニ、ウモレベンケイガニ、オサガニ、ムツハアリアケガニ、メナシピンノ
情報不足	2種	トゲナシヌマエビ、ヒメムツアシガニ
絶滅の恐れのある 地域個体群	1種	ハラグクレチゴガニ

重要なハビタット

山地の溪流はサワガニの重要なハビタットで、河口域の干潟はチゴガニ類、シオマネキ類、オサガニ類、アナジャコ類、スナモグリ類などの重要なハビタットである。また、河口工事、護岸工事のため著しく減少したヨシ群落とその周辺の干潟はアシハラガニ類、ハマガニ、ベンケイガニ類、アリアケガニ類、カクレガニ類、テナガエビ類の重要なハビタットである。特に、吉富町佐井川、曾根干潟、遠賀川、津屋崎町汐入浜、古賀市花鶴川、和白干潟、多々良川、宇美川、瑞梅寺川、前原市泉川、筑後川のヨシ群落は多種多様な生物の保全のために重要なハビタットである。



また、有明海湾奥部の泥干潟は有明海特産種ハラグクレチゴガニ、アリアケガニ、アリアケモドキなどの重要なハビタットである。

(嶺井久勝)

調査協力者：原戸眞視，中嶋秀利，大場崇臣，高比良光治，藤井暁彦，野中繁孝，藤川孝作，小野原一，井上準一，山本慶子

絶滅危惧 (福岡県)

シオマネキ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名: *Uca arcuata* (De Haan, 1833)

地方名: マガニ

カテゴリー: 準絶滅危惧 (環境庁), 希少種 (水産庁), 危険 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 1996~2000年までの調査で生息していた場所は、椎田町湯河内川、西角田漁港、曾根干潟、花鶴川、和白干潟、多々良川、筑後川、沖端川、塩塚川、矢部川、堂面川の河口干潟であるが、博多湾、曾根干潟、花鶴川などでは絶滅に近い。また、全国的にも護岸工事などによる生息地の破壊で急激に個体数が減少している。
分類・形態: 甲長21.2mm, 甲幅35.2mm (柳川産雄)。甲は前方に広く、後方は強く狭まり、眼窩外歯は突出し、この部分において甲幅が最大である。額は非常に狭く、先端は丸く下垂して基部においてくびれ、ここに細長い眼柄がある。甲の中央と後部には赤褐色の色素が網目状に存在する。雄のはさみ脚は左右いずれかが著しく大きく、小はさみ脚は歩脚より小

さく、指節の内側に毛を生じてスプーン状を呈する。

大はさみ脚の掌節はすこぶる幅広く、外面に大小の顆粒を密生し、指部は広い間隙があり、両指ともに先端約3分の1に小歯列がある。雌のはさみ脚は左右同大で、雄の小はさみ脚と同型である。

分布: (県内) 各地の河口

(県外) 本州 (三重, 和歌山), 四国 (徳島, 香川), 九州 (熊本, 宮崎, 沖縄)

(国外) 朝鮮半島, 山東半島, 台湾, ボルネオ, シンガポール

生活史・生態・生息地: 内湾・河口域の潮間帯上部にあるやや堅い泥地に穴居する。雄ははさみ脚と甲を上下する簡単な waving を行う。

(逸見)

絶滅危惧 (福岡県)

アリアケモドキ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名: *Deiratonotus cristatus* (De Man, 1895)

カテゴリー: 希少 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 和白干潟、多々良川河口でも生息の記録があるが、現在確認されているのは矢部川、諏訪川の河口干潟のみ。本種も護岸工事などにより減少。

分類・形態: 甲長6.0mm, 甲幅9.0mm (諏訪川産雌)。甲は平滑で、心域を横に貫く稜線と、これに連なって鰓域を横に走る稜線が、斜め前方にのび、前側縁の後方に前屈する。この稜線と平行して3つの短い稜線が胃域および肝域近くに並ぶ。額は眼窩の幅より広く、眼窩上縁は稜線が発達している。雄のはさ

み脚は長大で、左右同大、平滑である。第1歩脚を除き、黒色の長・短毛が密生する。雄の第5腹節はくびれ、第1腹肢が露出する。

分布: (県内) 山門郡, 大牟田市

(県外) 北海道, 本州 (青森, 東京), 有明海

(国外) 朝鮮半島, 中国

生活史・生態・生息地: 河口域上限の泥中や転石下に生息。アリアケガニと混棲することが多い。

(逸見)

絶滅危惧 (福岡県)

カワスナガニ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名: *Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934)

カテゴリー: 情報不足 (環境庁), 絶滅寸前 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 1988年に福岡町西郷川と志摩町桜井川で, 1999年に桜井川河口で, 2000年に二丈町柳川, 一貴山川で採集された。堰, 護岸などの河川工事によって生息地の生息条件が悪化しつつある。

分類・形態: 近似種のアリアケモドキが有明海の泥地に生息する。

甲長6.4mm, 甲幅7.7mm (志摩産雄)。甲は六角形, 顆粒が密生し, 起伏の多い粗面を呈する。前側縁は

3鈍歯。雄の第5腹節は中央でわずかにくびれ, 第6腹節より短い。

分布: (県内) 福岡町, 志摩町, 二丈町

(県外) 相模湾, 伊豆下田, 南紀富田川, 九州 (鹿児島, 宮崎)

生活史・生態・生息地: 河口の感潮帯上部の清流の砂礫中に生息する。西郷川では小石の下にいた。動きは非常に鈍く, じっとしている。

(嶺井)

絶滅危惧 (福岡県)

アリアケガニ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名: *Cleistostoma dilatatum* (De Haan, 1833)

カテゴリー: 危険 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: かつて普通に見られた福岡市多々良川河口と津屋崎町汐入浜では急激に減少している。現在確認されているのは諏訪川, 矢部川, 筑後川などの河口干潟。ただし, 個体数は多くない。護岸工事などにより減少。

分類・形態: 甲長8.0mm, 甲幅11.7mm (大牟田産雄)。甲は眼窩上縁および額に近い部分は平滑で, ほかは黒い短毛でおおわれ, 長毛が散在する。前側縁はひだでかこまれ, 前半部は後方に広がり, 後半部は狭まり, 両者は鈍い角度でまじわる。

額は幅広く, 前端は丸く, 下垂して眼窩幅と同長。はさみ脚は左右同大, 雄の掌節は大きく, 指節は基部に狭いすき間を残し, 両指節先端は平たく, 内側

に毛を生じてスプーン状を呈する。第2・3歩脚の長節は幅広く, 第1・4歩脚の長節は幅広くない。歩脚は軟らかい長毛と黒色の短い剛毛が密生する。

雄の第5腹節はわずかにくびれている。

分布: (県内) 宗像郡, 福岡市, 柳川市, 大牟田市

(県外) 有明海, 鹿児島

(国外) 朝鮮半島, 中国

生活史・生態・生息地: 河口域上限の河川高水敷に穴居。個体によっては巣穴上に泥で煙突状の構造物をつくる。捕らえようとする, 硬直して擬死の状態を示す習性がある。アリアケモドキと混棲することが多い。

(逸見)

絶滅危惧 (福岡県)

ベンケイガニ

十脚目 イワガニ科 Grapsidae

学名: *Sesarmops intermedium* (De Haan, 1835)

カテゴリー: なし

生息状況・危機の状況・選定理由: かつては博多湾や有明海に流入する河川(多々良川, 沖端川など), 志賀島, 相島, 宗像大島などで普通に見られたが, 護岸工事や道路工事により, 近年多くの生息地が消滅した。短期間に個体数が激減し, 普通種が希少になった典型的な例である。

分類・形態: 甲とはさみ脚が赤いのでアカテガニに間違えられやすいが, 眼窩外歯の後方に明瞭な1歯をもつことで区別できる。

甲長30.0mm, 甲幅31.4mm(津屋崎産雄)。甲は四角形で側縁の後方において開き, 胃・心両域間の溝および胃域前方の正中線の溝は顕著である。

額は中央が広くくぼみ, 左右の眼を結ぶ線上に4個の稜線があり, ここから額縁まで急に下垂する。

側縁の前方に2歯がある。はさみ脚はやや鱗状の顆粒を生じ, 掌節上縁から内面にかけて顆粒の稜線が走り, 中央に近い部分にはやや大型の顆粒が集まる。

歩脚は腕節以下に黒色の長・短毛を密生する。

分布: (県内) 宗像郡, 福岡市, 柳川市, 大牟田市(県外) 本州~沖縄

(国外) インドネシア, 台湾, 朝鮮半島

生活史・生態・生息地: 内湾・河口域のヨシ群落上部の土手に穴居。クロベンケイガニよりも上部に, アカテガニよりも下部に生息する。

(逸見)

絶滅危惧 (福岡県)

オオヨコナガピンノ

十脚目 カクレガニ科 Pinnotheridae

学名: *Tritodynamia rathbuni* Shen, 1932

カテゴリー: 危険 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 本種は主として砂泥質干潟に生息するツバサゴカイの棲管内に共生する種であるが, 博多湾, 有明海ではツバサゴカイが激減しており, 本種もともに減少している。宿主のツバサゴカイの生息地の底質, 水質が悪化している。

分類・形態: 近似種に主としてタマシキゴカイの棲管に共生するヨコナガピンノ, 大遊泳群を形成することで知られるオオギピンノがある。

甲長11.0mm, 甲幅20.0mm(和白産雄)。甲は紫色, 横に広い丸みのある四角形。額と眼窩上縁を結ぶ線は横にまっすぐで, 後縁と平行し, 両側縁も左右平行

である。はさみ脚の長節前縁と掌節下縁に毛が列生。第2・3歩脚の腕節・前節, 第4歩脚の各節の前縁後縁に長毛が列生する。

分布: (県内) 博多湾

(県外) 本州~九州

(国外) 中国, 朝鮮半島

生活史・生態・生息地: ツバサゴカイ, ワダツミギボシムシ, タマシキゴカイの棲管内に多くは雌雄一対が共生する。

(逸見・嶺井)

準絶滅危惧（福岡県）

マミズクラゲ

ヒドロ虫目 ハナガサクラゲ科 Olindiadidae

学名：*Craspedacusta sowerbyi* Lankester, 1880

カテゴリー：なし

生息状況・危機の状況・選定理由：1979年10月飯塚市の池で大発生したとの新聞記事，1999年5～10月大牟田市の久福木のため池で発生したとの情報がある。中国では昔から知られ，桃の花が咲く頃見られたことから「桃花扇」の呼び名がある。日本でも全国で見られたが，最近では激減している。

クラゲ類の大部分は海産で，淡水産は本種だけで，酸性雨による影響を強くうける恐れがある。

分類・形態：かさの直径は約20mm，多くの縁触手が

ある。生殖腺は不透明である。

分布：（県内）大牟田市

（県外）全国

（国外）全世界の温帯・亜熱帯地方

生活史・生態・生息地：10月頃卵と精子を放出し，受精後プラヌラ・ポリプに変態し，ポリプは春から夏にかけてクラゲ芽を出芽し，離れて幼クラゲに成長し，秋には成体になり成熟する。

（嶺井）

準絶滅危惧（福岡県）

ハウネンエビ

無甲葉脚目 ハウネンエビ科 Chirocephalidae

学名：*Branchinella kugenumaensis* (C. Ishikawa, 1895)

地方名：豊年魚・豊年虫

カテゴリー：なし

生息状況・危機の状況・選定理由：1998～99年には田川，鞍手，若宮，玄海，宗像，津屋崎，福岡，新宮，久山，粕屋，福岡市西区，志摩，前原などの水田で発生が見られた。以前は県内各地の水田や水路に普通に生息していたと考えられるが，毒性の強い農薬の使用により生息地が減少した。

生息環境は天敵の淡水魚もすめない高水温で弱アルカリ性の水域である。最近の酸性雨増加の影響を強くうける恐れがある。

分類・形態：日本産は2種類あり，北海道には冷水性種のウチダハウネンエビが生息し，近似種に魚介類の稚魚や甲殻類の幼生の餌のアルテミアがある。

体長15～25mm，体は細長く，円筒形，甲殻を欠く。第2触角は雌では葉片状，雄では太い鎌状，雄の前

額は長いT字状の大きい付属器をもつ。鰓脚は11対，脚をもたない体節は9つで，最後に尾脚がある。第11鰓脚の下に卵嚢があり，フラスコ状三角形である。

分布：（県内）各地の水田

（県外）本州～九州

（国外）インド，中国，朝鮮半島

生活史・生態・生息地：6～7月の水田・用水路・防火用水などで発生する。孵化後，約20日から産卵を始め，4～6日おきに放卵し，卵は土中に沈む。卵は水中では孵化せず，しばらく乾燥させると孵化する。幼生はプランクトン生活をすごす。成体は背中を下にして11対の脚で泳ぎながら水中の植物プランクトンを鰓脚で集めて食べる。

（嶺井）

準絶滅危惧（福岡県）

ミナミテナガエビ

十脚目 テナガエビ科 Palaemonidae

学名：*Macrobrachium formosense* Bate, 1868

地方名：マコ（長崎），ラクマ（宮崎）

カテゴリー：減少種（水産庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：1997～99年の調査で大島村の天の川，福岡町西郷川，古賀市花鶴川，多々良川で採集された。農薬の使用などで激減している。

分類・形態：県内には近似種のテナガエビとヒラタテナガエビが生息する。テナガエビは柳川の堀や河川に生息し，「釣りエビ」として親しまれているが減少している。また，ヒラタテナガエビも多々良川に生息するが減少している。

体長100mm。甲の表面は顆粒が密生。額角は上縁に10～11歯，下縁に2～3歯がある。触角上棘・肝上棘がある。第2脚の掌節は円筒形，表面に小さな棘

が密生する。

分布：（県内）大島村，福岡町，古賀市，福岡市（県外）本州～沖縄。日本海側に生息する種の一部は熱帯地域から幼生が対馬海流に運ばれてきたものである可能性がある。

（国外）台湾，朝鮮半島

生活史・生態・生息地：成体は河口域から中流域の流れの緩やかな深みに生息する。河口域で産卵し，幼生は沿岸で生活し，稚エビになると淡水域に移動する両側回遊種である。

（嶺井）

準絶滅危惧（福岡県）

ヤドリカニダマシ

十脚目 カニダマシ科 Porcellanidae

学名：*Polyonyx sinensis* Stimpson, 1858

カテゴリー：なし

生息状況・危機の状況・選定理由：本種は1945年以来確認されていなかったが，1999年に築上郡椎田町西角田漁港で，2000年に大牟田市三池で発見された。宿主のムギワラムシの生息地である砂泥質干潟の底質，水質が悪化している。

分類・形態：近似種にツバサゴカイの棲管に共生するウチノミヤドリカニダマシがある。

甲長5.5mm，甲幅7.0mm（椎田産抱卵雌）。甲は丸く，黄白色の地に紅色の斑紋がある。額角は前に傾

く。第1脚は左右不同，腕節前縁は前に膨らみ，掌節も膨らむ。指節は湾曲する。

分布：（県内）築上郡，大牟田市

（県外）四国（愛媛），九州（熊本）

（国外）中国

生活史・生態・生息地：多毛類のムギワラムシの棲管に共生する。

（逸見・嶺井）

準絶滅危惧 (福岡県)

ハクセンシオマネキ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名: *Uca lactea* (De Haan, 1835)

カテゴリー: 準絶滅危惧 (環境庁), 危険 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 1996~2000年までの調査で、山国川、西井川、曾根干潟、釣川、津屋崎町汐入浜、花鶴川、多々良川、今津川、泉川、筑後川、諏訪川などで生息が確認されているが、曾根干潟を除けば個体数が少なく、絶滅が心配される。全国的にも埋立や護岸工事により個体数が激減している。

分類・形態: 甲長10.0mm, 甲幅16.5mm (津屋崎産雄)。甲は乳白色、濃いセピア色の横縞の斑点があり、前後に丸みが強く、眼窩外歯は著しく突出せず、甲の後方において狭まることもシオマネキほど著しくない。

額は幅広く、くびれることなく、下垂し先端が丸く、中央がわずかに切れ込む。雄のはさみ脚は左右

いずれかが著しく大きく白色、長節の末端と腕節の内側に顆粒があり、掌節の上縁に沿って小さい顆粒が生じ、外面は平滑である。掌節の内面は基部が著しくくぼみ、中央に近く顆粒の列が斜めに走る。指部は広い間隙を抱き、両指ともに中央部に歯を突出する場合と全然歯のない場合がある。

分布: (県内) 各地の河口

(県外) 本州~九州

(国外) 朝鮮半島, 台湾, 中国

生活史・生態・生息地: 潮間帯上~中部にある堅い砂質干潟に穴居する。雄ははさみ脚を大きく振り、派手な waving を行う。

(逸見)

準絶滅危惧 (福岡県)

ムツハアリアケガニ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名: *Camptandrium sexdentatum* Stimpson, 1858

カテゴリー: 絶滅寸前 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 1995年に曾根干潟と筑後川河口で採集された。埋立や護岸工事などにより生息地が減少している。

分類・形態: 甲面は不平坦で、前側縁は前半部で狭まり、3個の鈍角の歯となる。歩脚は各節平圧され、前後縁に長毛がやや密に生える。雄の第1腹肢は非常に複雑で、先端が2本に分離し、一方はまっすぐ

とがり、ほかの一方は鉤形に2叉する。

分布: (県内) 北九州市, 柳川市

(県外) 本州~九州

(国外) 朝鮮半島, 中国, ベトナム

生活史・生態・生息地: アナジャコが多く生息するようなやや堅い砂泥質干潟に、浅い巣穴を掘って生息する。

(逸見)

準絶滅危惧 (福岡県)

タイワンヒライソモドキ

十脚目 イワガニ科 Grapsidae

学名: *Ptychognathus ishii* Sakai, 1939

カテゴリー: 希少 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 1998年の調査で、大島村天の川で採集された(新産地)。種の分布の北限地として重要である。

分類・形態: 近似種に淡水域に生息するヒライソモドキとアゴヒロカワガニがある。

甲長8.0mm, 甲幅9.5mm (大島産雄)。甲は平滑で、額角は幅広く、中央でわずかにくぼむ。前側縁の2歯は鈍い。はさみ脚の両指の基部に長い軟毛が密生

し、歩脚の前節・指節は短い剛毛が密生し、長い剛毛が散在する。第3額脚の外肢は著しく幅広い。

分布: (県内) 大島村

(県外) 和歌山, 与論島, 石垣島

(国外) 台湾

生活史・生態・生息地: 両側回遊種である。

(嶺井)

準絶滅危惧 (福岡県)

クシテガニ

十脚目 イワガニ科 Grapsidae

学名: *Parasesarma plicatum* (Latreille, 1803)

カテゴリー: 希少 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 曾根干潟, 津屋崎町汐入浜, 和白干潟, 多々良川河口に生息する。河川工事などによる生息環境の悪化が考えられる。

分類・形態: 近似種にユビアカベンケイガニがある。甲長20mm, 甲幅25mm (福岡産雄)。はさみ脚の指先が赤色を呈していることでベンケイガニ類と簡単に区別できる。また、ユビアカベンケイガニとは可動指の上縁に6~8個の大型顆粒があることで区別する。この顆粒により、本種はクシテガニと呼ばれ

る。

分布: (県内) 曾根干潟, 津屋崎町, 福岡市

(県外) 本州~九州

(国外) マレー半島, 中国, 朝鮮半島

生活史・生態・生息地: 堤の石のすき間やヨシ群落内の堆積物の下に生息する。ユビアカベンケイガニより上部の陸上まで生息する。

(原・嶺井)

準絶滅危惧 (福岡県)

ミナミアシハラガニ

十脚目 イワガニ科 Grapsidae

学名: *Helice leachi* Hess, 1865

カテゴリー: なし

生息状況・危機の状況・選定理由: 現在の生息場所は津屋崎町汐入浜である。南方系種の日本海側での北限地として重要である。

分類・形態: 各地の河口や干潟には近似種アシハラガニが普通に見られる。

甲長13.0mm, 甲幅15.0mm (津屋崎産雄)。甲は前後によく湾曲し、甲の色は茶褐色の地に暗紫色の斑

紋がある。眼窩下縁の稜線の顆粒は明確である。

分布: (県内) 津屋崎町

(県外) 伊豆大島, 小笠原諸島, 沖縄

(国外) アフリカ, オーストラリア, 台湾

生活史・生態・生息地: 干潟の満潮線近くの砂礫質に穴を掘って生息する。

(嶺井)

準絶滅危惧（福岡県）

ヒメアシハラガニ

十脚目 イワガニ科 Grapsidae

学名：*Helice japonica* K. Sakai & Yatsuzuka, 1980

カテゴリー：なし

生息状況・危機の状況・選定理由：現在の生息場所は曾根干潟，津屋崎町汐入浜，古賀市花鶴川，和白干潟，多々良川，瑞梅寺川，筑後川，大和町塩塚川，矢部川河口のヨシ群落付近である。生息場所であるヨシ群落の河川工事による減少に伴い減少している。

分類・形態：近似種に各地の河川域の干潟の泥質に多いアシハラガニがある。

甲長17.0mm，甲幅20.0mm（津屋崎産雄）。アシハラガニと混棲しているが，成体の大きさ（雌では腹部腹節の幅，雄でははさみの大きさ），眼の下の顆

粒数（雄11～13個，アシハラガニは16～18個），第1，2歩脚の腕節・前節に短毛が密生していること，砂泥地には生息しないことで区別できる。

分布：（県内）曾根干潟，津屋崎町，古賀市，福岡市，大和町

（県外）本州～沖縄

（国外）朝鮮半島，中国，台湾

生活史・生態・生息地：河口のヨシ群落内や海浜植物近くに生息する。ハクセンシオマネキを捕食する。

（原・嶺井）

準絶滅危惧（福岡県）

ハマガニ

十脚目 イワガニ科 Grapsidae

学名：*Chasmagnathus convexus* (De Haan, 1833)

カテゴリー：なし

生息状況・危機の状況・選定理由：現在の生息場所は曾根干潟，津屋崎町汐入浜，花鶴川，和白干潟，多々良川，瑞梅寺川，筑後川，塩塚川，矢部川河口である。河口のヨシ群落内と土手に穴を掘って生息し，ヨシの若い芽を食べて生活する。河川工事などによるヨシ群落の減少により生息地が減少している。

分類・形態：日本産は1属1種，甲長35.0mm，甲幅47.8mm（津屋崎産雄）。甲は著しく湾曲し，特に額域は下方に曲がる。甲の各域は明瞭に区別でき，正中に深い溝がある。前側縁は中央で膨らみ，鈍い3大歯

がある。甲背に短毛密生する。はさみ脚は強大，平滑無毛，可動指は掌節より長い。歩脚は細く扁平で短毛が密生する。

分布：（県内）各地の河口

（県外）本州～沖縄

（国外）台湾，朝鮮半島

生活史・生態・生息地：河口の汽水域上限地帯に多く生息し，近くの水田に大穴をあけるため，水漏れの被害を受ける地方では“土手くずし”の方言がある。

（嶺井・小野）

準絶滅危惧（福岡県）

ウモレベンケイガニ

十脚目 イワガニ科 Grapsidae

学名：*Clistocoeloma merguiense* De Man, 1888

カテゴリー：希少 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由：1986年宇美川河口から採集された。その後、1999年に多々良川河口、和白干潟と曾根干潟に生息しているのが確認された。護岸工事などによりヨシ群落などの生息地が減少している。

分類・形態：日本産は1属1種である。甲長13.8mm, 甲幅16.7mm (曾根産雌)。大部分の甲背, 甲腹, 脚は黒色の短毛で覆われている。脚の指節の先は鋭くとがり, 無毛である。甲背は凸凹で, 丸い顆粒突起が散在し, 大きな顆粒は20~30個ある。額角は幅広く, 前面に湾曲し, 大顆粒2個と小顆粒4個がある。前側縁は幅広い3歯よりなる。はさみ脚は左右同大,

可動指に4歯, 不動指に7歯ある。歩脚は扁平である。第3額脚は軟毛でおおわれている。

分布：(県内) 曾根干潟, 福岡市

(県外) 本州~九州

(国外) インドネシア, シンガポール, 台湾, 朝鮮半島

生活史・生態・生息地：ヨシ群落近くの海浜植物イソノウキギ (アカザ科) のはえている砂礫質の小石の下に生息する。採集してもほとんど動かない。夜行性のようである。生態は全く不明である。

(嶺井・小野)

準絶滅危惧（福岡県）

オサガニ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名：*Macrophthalmus abbreviatus* Manning & Holthuis, 1981

カテゴリー：なし

生息状況・危機の状況・選定理由：曾根干潟, 津屋崎町汐入浜, 和白干潟, 室見川, 有明海各地など生息地は多いが, 有明海の一部を除けばいずれも密度が低い。埋立・干潟の悪化により各地で個体数が減少している。

分類・形態：甲長16.0mm, 甲幅35.0mm (和白産雄)。甲は長方形で前後に湾曲, 側縁部に軟毛が密生。ヤマトオサガニに似るが, 本種は甲幅が甲長の2倍以上あり, 甲・はさみ脚ともに赤味を帯びる。はさみ脚は長節と掌節が非常に長く, 長節前縁には長毛を

密生する。不動指は掌節に対し直角に湾曲する。

分布：(県内) 北九州市, 宗像郡, 福岡市, 有明海各地

(県外) 本州~九州

(国外) 朝鮮半島, 中国, 台湾

生活史・生態・生息地：砂泥質干潟の中・下部で, やや堅く水はけの悪い場所に穴居するが, 巣穴を持たずに放浪している個体も多い。waving は行わない。

(逸見)

準絶滅危惧 (福岡県)

メナシピンノ

十脚目 カクレガニ科 Pinnotheridae

学名: *Xenophthalmus pinnotheroides* White, 1846

カテゴリー: なし

生息状況・危機の状況・選定理由: 1999年に曾根干潟で初めて発見されたので選定した。

分類・形態: 甲長9.5mm, 甲幅13.0mm (大牟田産成体雄)。甲は丸みのある梯形, 額は狭くてくびれ, 先端は浅く2葉に分かれ, 退化した眼柄が封じこまれている。前側縁は丸く, 後側縁は幅広い。甲縁, 歩脚の上縁, 下縁は羽状毛が列生する。

分布: (県内) 曾根干潟, 大牟田市

(県外) 四国 (愛媛), 九州 (佐賀, 熊本)

(国外) フィリピン, インドネシア, 中国

生活史・生態・生息地: 有明海では干潮線付近の砂泥質の干潟で採集されたが, 水深20メートルまで生息する。

(嶺井)

情報不足 (福岡県)

トゲナシヌマエビ

十脚目 ヌマエビ科 Atyidae

学名: *Caridina typus* H. Milne-Edwards, 1837

カテゴリー: なし

生息状況・危機の状況・選定理由: 1998年に大島で県内で初めて採集された。

分類・形態: 熱帯系の種で, 日本海側では島根県隠岐まで分布している。近似種として各地の河口には両側回遊種のミヅレヌマエビが生息し, 河川の上流 (英彦山) の清流の谷川にはヤマトヌマエビ, 各地の池沼・ダム・河川・用水路にはヌマエビとミナミヌマエビが普通に生息する。

体長30mm (雌), 20mm (雄)。額角は短く第1触角

柄の第1節をわずかに越え, 上縁無歯, まれに1歯, 下縁に1~3歯。触角上棘がある。

分布: (県内) 大島村

(県外) 本州~沖縄

(国外) インドネシア, 台湾

生活史・生態・生息地: 河川の下流域に生息する両側回遊種である。

(嶺井)

情報不足 (福岡県)

ヒメムツアシガニ

十脚目 ムツアシガニ科 Hexapodidae

学名: *Hexapus anfractus* (Rathbun, 1909)

カテゴリー: なし

生息状況・危機の状況・選定理由: 博多湾箱崎浜で1930年頃記録があるが, 県内では近年確認されていない。海岸の汚染・埋立のため, 宿主のトゲイカリナマコ, ツバサゴカイ, チンチロフサゴカイが希少。

分類・形態: 歩脚が3対 (6本) で, 長節の中心部の中央に縦溝が走る。近縁種のムツアシガニは, 腹甲の溝が本種ほど大きくない。また, 歩脚の長節は先端で肥大する。

分布: (県内) 福岡市

(県外) 本州 (和歌山), 四国 (高知), 九州 (佐賀, 熊本)

(国外) タイ

生活史・生態・生息地: 砂泥または泥質干潟に生息し, トゲイカリナマコの生息孔内, またはツバサゴカイ, チンチロフサゴカイの棲管内に共生する。内湾の河口または淡水の影響を受ける汽水域に多い。

(逸見)

絶滅のおそれのある地域個体群（福岡県）

ハラグクレチゴガニ

十脚目 スナガニ科 Ocypodidae

学名：*Ilyoplax deschampsii* (Rathbun, 1918)

カテゴリー：情報不足（環境庁），危険（WWFJ）

生息状況・危機の状況・選定理由：有明海北部周辺には多くの個体群が存在し密度も高いが，それ以外の地域では偶発的に記録されるにすぎない。有明海でも護岸工事などによって生息地が減少している。

分類・形態：形態はチゴガニに似るが，本種の甲は丸みを帯びず，ほぼ長方形。また，雄の腹部は第5節が極端に狭まり，くびれる。有明海特産種。

分布：（県内）有明海各地（筑後川，塩塚川，沖端川，矢部川）

（県外）九州（長崎，佐賀，熊本）

（国外）中国，朝鮮半島

生活史・生態・生息地：河口域上流側のヨシ群落周辺の泥質干潟に多いが，一部は汽水域上限の河川高水敷にも穴居する。繁殖期が4～7月，3～11月の活動期を通して密な放浪集団を形成する点でチゴガニと異なっている。

（逸見）

(文献)

- 福田 宏, 2000. 「周防灘の現状」有明海 vs. 周防灘 干潟・最後の楽園からの叫び〜貝類等を中心とした保全運動最前線〜: シンポジウムと観察会. *The Yuriyagai: J. Malacozool. Ass. Yamaguchi*, 7(2): 201-202.
- 花輪真一・佐久間浩子編集, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF Japan Science Report*, 3: 1-181.
- 林 健一, 1989. 日本産エビ類の分類と生態. *ヌマエビ科*. *海洋と生物*, 11: 40-44, 126-129, 227-231, 310-314, 376-379, 497-501.
- 林 健一, 2000. 日本産エビ類の分類と生態. *テナガエビ類*. *海洋と生物*, 22: 240-245.
- 逸見泰久, 1994. 和白干潟の生きものたち. 海鳥社, 福岡.
- 逸見泰久, 1993. 和白干潟 - 干潟の自然と観察 -. 福岡自然環境研究会.
- 逸見泰久, 1994. 博多湾東部におけるベントスの定量的研究. 和白干潟の底生動物分布・現存量調査. 春季(予報). *WWF Japan Science Report* 2(1): 49-73.
- 逸見泰久, 1996. 福岡県におけるシオマネキ, ハクセンシオマネキ, ハラグクレチゴガニ(レッドデータブック希少種)の分布とその生息状況. *生物福岡*, 35: 5-8.
- 逸見泰久, 1996. 博多湾東部浅海域の底生動物 - 夏季成層期 -. *生物福岡*, 35: 14-18.
- 逸見泰久, 1998. 干潟の生き物. 伊藤よしの編集, 博多湾おもしろ自然図鑑[未来へ]. 博多湾の豊かな自然を未来に伝える市民の会, 福岡.
- Hennmi, Y., and M. Kaneto, 1989. Reproductive ecology of three ocypodid crabs. I. The influence of activity differences on reproductive traits. *Ecol. Res.* 4: 17-29.
- 環境庁編, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - (無脊椎動物編). 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁編, 1993. 日本野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状 - (無脊椎動物編 I). 自然環境研究センター, 東京.
- 菅野 徹, 1979. 有明海の動物相. *動物と自然*, 9: 251-310.
- 菅野 徹, 1981. 有明海. 東海大学出版会, 東京.
- 小菅文治, 1999. 諫早湾の生物 - 有明海特産種の宝庫・有明海の干潟のカニ. *遺伝*, 53: 89-92.
- 九州・琉球湿地ネットワーク, 1999. '99 九州・南西諸島湿地レポート. 108 pp., 九州・琉球湿地ネットワーク, 福岡.
- 嶺井久勝, 1972. 日本産イワガニ類2種の分布と生態学的知見. *九大農学芸誌*, 27: 49-53.
- 嶺井久勝, 1972. 日本の淡水エビ類の生態と増殖. *ネイチャー・スタデー*, 18: 62-68.
- 嶺井久勝, 1995. ホウネンエビ *Branchinella kugenumaensis* の博物史と新知見. *日本甲殻類学会*, 22 pp.
- 三宅貞祥, 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 保育社, 大阪.
- 三宅貞祥, 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II). 保育社, 大阪.
- 西村二郎編著, 1992. 原色検索日本海岸動物図鑑 [I]. 保育社, 大阪.
- 西村二郎編著, 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑 [II]. 保育社, 大阪.
- 岡田 要, 内田清之助, 内田 享 監修, 1965. 新日本動物図鑑 [上・中・下]. 北隆館, 東京.
- Ono, Y., 1965. On the ecological distribution of ocypodid crabs in the estuary. *Mem. fac. Sci., Kyushu Univ., Ser. E (Biol.)* 4: 1-60.
- 小野勇一, 1976. 巣穴と餌場をめぐる一生; カニ, 山へ登る. 「特集 カニの世界」, 41: 20-21, 30-35.
- 小野勇一, 1978. スナガニ類の観察. 図解自然観察シリーズ 4, 水の動物. 学研, 東京.
- 小野勇一, 1995. 干潟のカニの自然誌. 平凡社, 東京.
- 酒井 恒, 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京.
- 水産庁, 1994-97. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎調査 (I-V). 水産資源保護協会, 東京.
- Uchida, T., 1955. Dispersal in Japan of the fresh-water medusa, *Craspedacusta sowerbyi* Lankester with remarks on *C. iseana* (Oka & Hara). *Annot. Zool. Japan.* 28: 114-150.
- 内海富士夫, 1956. 原色日本海岸動物図鑑. 保育社, 大阪.
- 上田常一, 1941. 朝鮮産甲殻十脚類の研究. 第1報, 蟹類. 朝鮮水産会.
- 上田常一, 1961; 1970 (改訂 増補版). 日本淡水エビ類の研究. 園山書店, 島根.

- 上野益三編修, 1973. 川村多実二原著・日本淡水生物学. 図鑑の北隆館, 東京.
- 和田恵次・小菅丈治・高山順子, 1992. チゴガニとハラグクレチゴガニの分布. 甲殻類の研究, 21: 138-146.
- 山口隆男, 1970. ハクセンシオマネキの生態 (I). CALANUS, 2: 5-30.
- 山口隆男, 1983. 天草を代表する海岸動物 (1) ハクセンシオマネキ (*Uca lactea lactea*). CALANUS, 8: 25-32.
- 山口隆男・武田正倫・徳留一生, 1976. 会津臨海実験所付近のカニ類, および鋏脚の左右不相称の研究. (予報) CALANUS, 5: 31-46.
- 山口隆男・原田敬一・武田正倫・菊池泰二, 1985. 天草諸島のカニ類相. CALANUS, 10: 1-71.